

## 北極域データアーカイブの新たな展開

## New developments of Arctic Data archive System(ADS)

\*矢吹 裕伯<sup>1,2</sup>、杉村 剛<sup>2</sup>、照井 健志<sup>2</sup>

\*Hironori Yabuki<sup>1,2</sup>, Takeshi Sugimura<sup>2</sup>, Takeshi Terui<sup>2</sup>

1.国立研究開発法人海洋研究開発機構、2.国立極地研究所

1.Japan Agency for Marine-Earth Science and Technology, 2.National Institute of Polar Research

北極域は地球の中でも温暖化が最も顕著に現れている地域であり、大気・海洋・雪氷・陸域が急速に変化している。北極域研究の積極的な推進は、観測データに担うとことが大きい。

日本の研究者により北極域の研究は数十年前から広く行われており、現地での観測データやサンプルの分析データといった。現業観測では得られない貴重なデータが含まれる。これらのデータは、研究所もしくは研究者個人によって管理がまかされてきたこともあり、系統的に保管管理されてこなかった。

北極域データアーカイブは、各分野間でのデータの相互利用を図り、現場観測、収集データ、衛星データ、数値実験データ等のデータセットの構築を通して北極域の大気—海洋—陸域システムの変動の実態とプロセスの解明、地球温暖化における北極域の環境変動の影響を評価、将来予測精度の向上に貢献する。

北極域研究の新たなプロジェクトであるArCS（北極域研究推進）プロジェクトが2015年が開始された。北極域研究推進プロジェクトは、文部科学省の補助事業として、国立極地研究所、海洋研究開発機構及び北海道大学の3機関が中心となって、2015年9月から2020年3月までの約4年半にわたって実施する、我が国の北極域研究のナショナルフラッグシッププロジェクトである。ADSはこのプロジェクトのデータマネージメントを担当する。

キーワード：北極域、環境、温暖化、ArCS、データ

Keywords: Arctic, Environment, Global Warming, ArCS, Data